

令和3年度宇部市公共交通協議会 第7回会議 会議録

日時：令和4年（2022年）2月18日（金） 9:00～10:00

場所：宇部市役所本庁 3階 総合戦略局会議室、Web

出席者：18名（欠席者2名）

榊原会長（国立大学法人山口大学大学院）
鈴木委員（国立大学法人山口大学大学院）
大谷委員（宇部市交通局）
綿部委員（船木鉄道株式会社）
高村委員（サンデン交通株式会社）
中村委員（西日本旅客鉄道株式会社）
薦委員（中国運輸局山口運輸支局）
中尾委員（中国地方整備局山口河川国道事務所宇部国道維持出張所）
保村委員（山口県宇部土木建築事務所）
栗栖委員（山口県宇部警察署）
伊藤委員（山口県観光スポーツ文化部交通政策課）
吉原委員（一般社団法人宇部観光コンベンション協会）
木原委員（宇部市地球温暖化対策ネットワーク）
森山委員（公共交通利用者）
山根委員（宇部市交通局バスモニター）
萩原委員（山口大学大学院創成科学研究科）
三戸委員（宇部市自治会連合会）
村上委員（宇部市総合戦略局）

事務局：3名

交通政策推進グループ 羽根グループリーダー、成瀬チーフ、金子

次第：1 会長あいさつ

2 議事

（1）宇部市地域公共交通計画（案）について

（2）二俣瀬地区デマンド運行「ひまわり号」の運賃変更について

3 その他

1 会長あいさつ

2 議事

(1) 宇部市地域公共交通計画（案）について

事務局から、資料について説明を行った。意見等については、以下のとおり。

【委員】

このパブリックコメント実施結果という資料は公開されるものと考えてよろしいか。

【事務局】

はい。

【委員】

No.5（シェアサイクル）であるが、採算性等で課題があるというようなご返答であるが、公共交通の考え方として、採算性が取れるなら一般的な事業としてやってもらえばよくて、採算性がなくても、そこに必要性とか需要があるのであれば、公共で支えていくというような考え方で、路線バスの補助などもされていると思うので、採算性に課題があるという書き方ではなくて、「ニーズがない」とか、「現状では需要が乏しい」とか、そのような書き方にされた方が良いのではないかなと感じた。このパブリックコメントは、私が拝見してきた中では、意見がかなり多いという感じを受けた。すごく関心が高いのであろうと考えているので、いろいろ意見いただいたところに、なるべく丁寧にご回答いただければと思った。

【会長】

今のシェアサイクルの意見についていかがか。

【事務局】

このシェアサイクルについては、以前シェアサイクルの実証実験を行った際の結果等を参考にしている。シェアサイクルの実績であるが、令和元年の8月27日から4ヶ月程度実施させていただいたが、延べ人数が120人、1日平均1.3人という利用であった。委員が言われるような趣旨で書かせていただいたつもりだったが、ご指摘のような、「需要がない」というつもりで書いたものであるので、そのような修正をさせていただきたいと思っている。

【会長】

よろしいか。

【委員】

承知した。

【会長】

シェアサイクルに関しては、いろいろとデータを見ていたので、大体どんな利用実態だったかはよく知っている。シェアサイクルに関して言えば、もう少し実証実験期間が長ければ少し状況が違っただろうなというのは個人的には思っている。山口市では、2年ぐらいのか

なり長期間で実験をしているので、それなりに利用も上がっているように思うので、その辺りは思うところはある。しかし、一昨年前の実証実験に関して、量がそこまで多くなかったというのは事実なので、その事実を記載されるのは良いと思う。それから委員もそのあとでおっしゃったことは私も同感で、かなりたくさんご意見をいただいていると思う。その中で、自分が見ても、ここは少し誤解もあるかなとか、或いは市としてのまちづくりの考え方というものは、市なりにお持ちのはずであろうが、その辺りがうまく伝わっていないかなと思えるようなところもあるので、そのあたりは、ある意味コミュニケーションの機会ととらえて、委員が言われるようになるべく伝わりやすいような、わかっていただけのような、反映できないものもあると思うので、なるべく理解していただけるような書き方というのは、事前にも申ししたが、工夫していただきたいと思うし、もし必要であれば、何か私の方でも拝見させていただく。

【委員】

シェアサイクルの件について補足というわけではないが、山口市も採算性という点では、そんなに良いわけではない。ただ、公共交通を使ってもらいきっかけというか、公共交通の利便性を高めるためのシェアサイクルという考え方をしていると聞いているので、「公共交通全体のネットワークの一つとしてのシェアサイクルの役割については引き続き検討します」というようなスタンスを書かれてもいいのかなと個人的には思った。それから先ほど、会長も言われている通り、結構関心が高いので、パブリックコメントに対応する期間が短いと思ったので、もし今後計画を策定されるときに、市民の皆さんの意見を取り入れるような機会を、パブリックコメント以前に作っていくということも考えた方が良いのではないかと思った。これは計画に反映していただくという点ではないが、そのように感じた。

【会長】

後段に関しては、上手くメッセージをお伝えしきれていないのかなと感じる。情報を出す側にもいろいろ課題はあると思うので、その辺りは委員が言われるように、コロナでやりにくかった部分もあると思うが、次年度以降、利用促進とは少し違う形のいろいろなコミュニケーションのあり方をもう少し広く考えたほうがいいのかもかもしれない。おそらく地域内交通の運営組織など地域レベルではやってらっしゃると思う。ICカードの導入など今年度も動きがあるので、その辺りは少し考えていった方がよいと確かに感じた。シェアサイクルのパブリックコメントに対するこちらからの考え方についての委員のご意見に関してはいかがか。

【事務局】

自転車の計画も関連計画として位置付けているので、最初に言っていた「採算性がない」という表現は修正をさせていただいた中で、過去取り組んできた実績を書くような形での修正にさせていただきたいと思っている。

【会長】

私の記憶では、自転車の計画には「シェアサイクルは検討項目」というような表現をされ

ていたのではなかろうか。だから、そちらと整合するような表現にしていればよいと思う。直ちに実現しようという状況にないとは思いますが、山口市もおやりになっているとか、採算性ということであると、やはりグリーンスローモビリティと同じで、すごく季節性が強くて、そこがシェアサイクルは採算性の面では苦しいと思うが、例えば自転車の計画の方で書かれている記述に準ずるような形にされるとか、いろいろ方法はあるのかなと思う。

【委員】

目標達成状況の評価のところについて、前回の素案の時に比べて、PDCA サイクルを取り入れて、大きな進捗管理を行っていくということを追記いただいているが、この公共交通計画を策定すれば、今後公表され、皆さんの目に触れるということになるので、PDCA サイクルのイメージが掴みやすいような図のようなものを入れていただけるとよいと思う。

【会長】

事務局いかがか。

【事務局】

図を加えさせていただくようにする。

【会長】

今回のご意見の中で、計画の評価指標というところで、『『コロナ発生前の水準まで戻る』という表現は、現実味がなく、コロナ発生前には戻らないと考える。表現の方法を変更することを意見する』ということで、この点については前回の協議会でも議論になったと思うが、すごく大事な点だとは思いますが、もちろんコロナ前までは戻りきらないのではないかといろいろな考え方はあるわけであるが、前回もお話があったが、宇部市としての目標値というのはコロナ前に100%戻るということではなくて、ある程度人口減少であるとかそういうものを加味した中で、その水準までは「戻る」というよりは、「戻したい」という話で目標値を設定するということになるかと思う。ただ、ご指摘は確かにわかることはあって、本当にそこまで戻すことができるのかというのは、当然ご意見としてあるだろうなと思うので、そこを少しでもそういう方向に目指していくというのがこの計画としての考え方だろうと思っているが、やはりこのあたりはこれからも気にしてかないといけないところであるし、今回もオミクロンで第6波ということになって、なかなか以前のように戻らないという状況があるわけであるが、この計画としては、できるだけそちらに向けて努力していきたいということで書いているということになると思う。この辺り前回の協議会の議論とも通じるお話ではあったかなと思っている。

【その他意見なし】

【会長】

まず、ご意見いただいた2件のうちで、委員のお話は、PDCA がわかるような図を入れた方がいいのではないかとのご意見で、基本的な文言ではなくて、説明の仕方の問題なので、そこはおそらく事務局に対応いただけると思う。それから、委員のお話は、パブリックコメントに対して丁寧に対応すべきではないかという話で、それはもっともかなと思うので、う

まく皆さんに伝わるような表現とか、あとやはり考え方としてシェアサイクルの話などは、自転車の計画との整合もあると思うので、少しご相談させていただきたいと思うが、事務局、それは可能か。

【事務局】

事務局で修正案を作成し、会長に確認をしていただきたいと思っている。

【会長】

計画それ自体については、先ほどのPDCAのお話と今のところのみかなと思うので、計画案については基本的には、この協議会としては、この案ということで、皆様よろしいか。

【全委員】

異議なし

【会長】

ということで、事務局の方から今回この計画について、追加で何かあるか。

【事務局】

今年度は、この計画に関する協議を何度もしていただき、皆様のおかげで、今の段階まできている。細かい手続きのことになるが、本日午後から市議会の産業建設委員会に説明し、そのあと、市の計画ということにはなるので、市長の決裁を経て、3月に策定という流れとさせていただきたいと思っている。先ほどご意見いただいた反映も含め今想定してるところで、公共交通の利用状況の期間が項目ごとに異なるというところを合わせるなどの修正を考えているので、そのような修正については事務局と会長の方に一任ということでさせていただきたいと考えている。

【会長】

皆様、そういうことでよろしいか。

【全委員】

異議なし

【会長】

それでは事務局及び会長に一任ということで、私どもの方できちんと対処させていただく。おそらく議論が今日までということなので、少しお時間をいただいて、私の方から若干コメントさせていただきたい。この1年間、協議会の回数も多かったわけであるが、ご議論いただき、感謝している。考えてみると、宇部市の公共交通には長く関わってきたことになり、いろんな国の法制度が変わってくる中で、最初は「総合連携計画」というものが藤田市長のもとで策定された。次に「地域公共交通網形成計画」というものが久保田市長のもとで策定された。そして、このたびの「地域公共交通計画」というのが篠崎市長のもとでということで、三つ目の公共交通に関する宇部市のマスタープランということになるのかなと思う。その中で二つ目の「地域公共交通網形成計画」の段階から議論に参加されてる方もいらっしゃると思うが、宇部市交通局の路線に関して、かなり大規模な再編をし、その中で路線の廃止といったこともかなり起こってきた。その部分でご迷惑お掛けしたりもしているわ

けであるが、そういった中で、立地適正化計画とも連動した形の交通体系を作ったのだろうと思っている。このたびの計画に関しては、今の宇部市の公共交通に関していろんな意味での「メンテナンス」的な部分もあるのかなと思っている。それは物理的な部分、例えばバス停のいろんなメンテナンスの話などもあるし、地域内交通の運営組織に関して、発足から大分時間が経ってきている中で、これからもきちんと組織を機能させていくためのことを考えていく、或いは北部の地域でいろいろ地域内交通について考える枠組みを考えていきたいなど、これまである程度形を作ってきた部分の内実をさらに高めるためのいろんな工夫を計画に入れることができたと思っている。ただ一方で、パブリックコメントでいろいろとご意見いただいているように、不十分な事項があると思われる方もいらっしゃると思うし、こちらとしてお伝えしたいと思うメッセージが伝わっていない部分もあるのかなと思うので、その部分は反省するところもあるし、先ほどの委員のご意見にもあったが、いろんなコミュニケーションということは考えていかないといけないとも思う。それから、計画を策定し、ある程度方向性は示すことができたんだけど、まだ具体化のところまではこれからというところも幾つかあると思う。具体的には、一つは、鉄道をはじめとしたモード間の連携というところかなと思う。タクシーのようなもの、或いは地域内交通、いろんなものがあると思う。シェアサイクルもそうかもしれない。そういったモード間の連携というところは、もう少し踏み込まないといけないことであると思うので、その部分はこれからも考えていかないといけないかなと思っている。それから、二つ目であるが、交通局がこの3月にICカードを導入されて、JRも山陽本線に入るようなお話を発表されたと思うが、そういうものが入ってくる中で、普及もあるが、それをいかにうまく活かしていくかということも、まだ道半ばのところがあると思う。最後に、小野田方面のバス路線のあり方も重要な問題であると思っている。この件に関しては、宇部市の交通政策としては、宇部の住民の方が小野田方面に行くときの利便性ということもあるし、或いは山陽小野田をはじめとした宇部より西側の方が、例えば宇部の学校に来る、宇部の病院に来る、そういう時の利便性ということも宇部市としては考えるべきであると思っている。まだ未整備の論点もあるとは思いますが、そういう部分でこの協議会というのも重要だと思うし、とはいえ、私個人は1大学の人間に過ぎないので、協議会に所属されている様々な組織のご協力があった初めて成り立つことだと思うので、事務局がいろいろご努力される部分はもちろんあると思うが、引き続きよろしくお願い申し上げます。

(2) 二俣瀬地区デマンド運行「ひまわり号」の運賃変更について

事務局から、資料について説明を行い承認された。意見等については、以下のとおり。

【会長】

夏休みの短縮であるとかそういうものに対応しようということの良いか。

【事務局】

そうである。数日間だけ通学定期券の定めていた期間を超える事態が発生していたため、祝日や土日の関係で、分割して購入するという話になっているので、4ヶ月を超えるところを設定しているということである。

【会長】

夏休みの短縮であるとか学校側の色々な状況が変わる可能性がある中で不都合が生じていた部分を、融通性を持たせたいということであると理解している。利用者の利便性の向上に繋がるものであり、良いことであると思う。

【全委員】

その他意見、異議なし